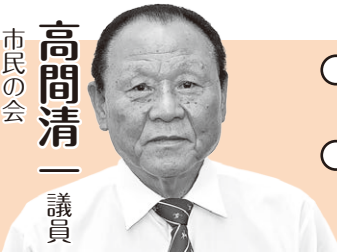


市民の会
高間清一
議員



- 道の駅隣接地における「恐竜渓谷かつやま」エリア地区計画について
 - 大蓮寺川元禄線放水路整備工事及び市の関連工事について
- その他の質問
・東山いこいの森などの施設の再利用について

議 予定の1万4500㎡のうち、2800㎡は地元企業の食品製造会社が取得したとの報道があったが、もう1社は辞退した。

勝山市は、残った土地を4つの区画に分けて分譲する計画だが、今後どのような条件で売却するのか。

理 恐竜渓谷かつやまエリア地区計画は、道の駅とその隣接地を含めたエリアの賑わいの実現を目指し、道の駅を補完する機能の適正誘導を図り、背後に連なる白山連峰への眺望景観等との調和を図ることを目的として制定するものである。

市としては、当エリアが観光誘客施設の立地場所として恵まれた条件を満たしていること、また立地条件など都市計画は長期的なまちづくりが基本であり、一定の規制の中で付加価値の高いエリアの開発をお願いしていきたいと考えている。

現在、都市計画審議会で審議中の案件であり、審議会での議論を見守りたい。



議 県発注の大蓮寺川元禄線放水路整備工事や市発注の関連工事について伺う。

当初、約10年で6億円程度の工事と聞いていたが、平成26年から始まり、現在も続いている。全ての工事が完了するのはいつ頃になるのか。

理 平成26年度から始められた大蓮寺川元禄線放水路整備工事は、令和6年度中に完成すると聞いている。

よって、市が行う道路整備については、令和5年度から福井県の事業が完成している勝山郵便局交差点から元町交番交差点に向かって順次整備を進め、令和7年度までに全ての整備を完成したいと考えている。

市政会
帰山寿憲
議員



- 災害復旧後の農業の持続について
 - 部活動の地域移行について
- その他の質問
・中学校の再編に関して

議 市として、地域作物の多様化に向け、新規作物の推奨や栽培の支援を推進するべき。

また、転作補助金制度を見直す方針だが、山間地の耕地維持のため、独自の対応を考えるべき。

理 勝山市の農業を取り巻く社会情勢が大きく変化している現状を踏まえ、国やJAに頼るだけでなく農地を維持していくことが農村集落を維持し、それが勝山市の持続につながっていくという観点から、市独自の新規作物の推奨や支援、地域作物の多様化、これを支援するための施設の必要性を検討していく。

水田活用の直接支払交付金見直しによって影響を受けると思われる勝山市の農地は、中山間地域を中心に約90haの見込みで、このまま進むと令和9年の作付けからは交付金の交付対象外となり、耕作放棄地になる可能性がある。

麦やそばを作付けし、懸命に農地を守っている方に対しては、政府の動向を注視し、国や県に対し支援を働きかけ、対象外になっても継続できるような市独自の対応を含め検討していく。

議 民間クラブ、指導者に資金的な支援を行うべき。

また、指導者不足に対応するため、地域おこし協力隊の制度を利用してはどうか。

理 運動系部活動、文化系部活動ともに持続的に支援できる指導者の確保や謝礼等を含めた運営資金の確保が課題となる。3中学校の統合を視野に入れる中で、指導者確保のために必要な経費は、市が責任をもって対応していく。

地域おこし協力隊制度の活用は、指導者の確保に向けた有効な手段の一つと考える。

隊員の活動として、中学校の部活動指導に加えて小学生のスポーツ少年団育成、高校生への指導、市民に対する運動教室の開催など、役割が期待できる。

先進地の事例研究を行い、部活動地域移行のサポート専門の地域おこし協力隊員を募集していく。